

## 令和5年度富山県水墨美術館運営委員会 議事抄録

令和5年10月30日(月)

富山県水墨美術館映像ホール

- 1 開会
- 2 委員長選出
- 3 議 事
  - (1) 令和4年度事業報告
  - (2) 令和5年度事業実施状況
  - (3) 施設の管理運営状況
  - (4) アンケート結果
- 4 意見交換
- 5 閉会

12名中出席11名(うちリモート1名)欠席1名

### おもな発言

- ・作品は、作家の感動や驚喜などの熱い思いを、創造という壮絶な営みによって表現し、迫力と感性を伝えてくれるもの。美術館は、そのような、作家が精魂込めて制作された作品に出会える場であり、それを鑑賞者に伝えるのが学芸員の役割。美術館が出会いの場となり、感動を伝える機会をつくり出していただけることをおおいに願っている。施設は、外見上はきれいに見えるが、20年を過ぎたら改修が必要。美術作品とは違う部分なので難しい面もあると思うが、それによってよりよい美術館になると思うので是非考えてほしい。(A委員)
- ・水墨美術館は、全国の平均から考えると、予算もコンパクトな中でよくやっている。富山県美術館との住み分けも工夫しておこなっており、これまでの、地域の方々いろいろな美術をご覧いただく方向で間違っていない。来年度25周年とのことだが、全国的には、概ね25年ほどで設備改修に入るのが美術館の平均的なところ。30年頃までには空調や電気設備が弱ってくるもの。昨年度の本会の提言を受けて改修などめざしたが困難だったとのことだが、30年に向けて是非計画的に考えるべき。自身の所属する美術館も、古い設備に時々困ったことが起こる。極端なことだが急に臨時休館せざるを得ないことがあった。美術館にとっては致命的。富山も、そういったことが身近に迫っているという意識を持った方がよい。今は何とか動いていても、計画的に考えていくことが必要。  
ウェルビーイング指標については数字で測れない側面が難しいが、豊かさを考えると、富山はよくできていると感じる。見かけの数字(観覧者数)は落ちてきていると言われるが、展覧会の内容にメリハリを意識していけばよい。参考までに、国では子育て支援に力を入れており、例えば子ども連れの方は、チケット購入の際に並ばずに優先的に買えたり、子どもたちが騒いでも大丈夫な日を作ったりして、幼いうちから美術館に親しんでもらうような工夫をはじめている。収入や観覧者数にはすぐには結び付かないが、館ごとの工夫ができればよいのではないか。(B委員)
- ・アンケートの結果に、「大規模でなくても味わいのある企画展を今後も希望」と書いてあ

り、その通りだと思う。観覧者を呼ぶことも必要だが、味があるのは大事なこと。水墨美術館の企画展はほとんど見ており、自分の専門分野とは異なる世界の展覧会には、とてもいい機会をもらっている。江戸や明治など、当時の人が知っていた説話や歴史上の人物など、現代の人は知らないことが多く、既に失ってしまった感性や今後失われていくであろう感性を思い出させてくれ、このような路線は重要。若い世代にアニメの影響で刀剣が人気だったり、展覧会を見ていて大河ドラマの登場人物などが思い出されたりするので、現在の水墨美術館でそのような内容があるのはよいこと。また、女性画家、美人画などジェンダーに関する意識の高まりなどリサーチしてはどうか。(C 委員)

・高齢化社会を考えた時に、年を取ることを前向きに考えるのが大事だと思っており、そのような作家の展覧会があると興味がわく。また、富山の人知らない美術館のコレクションの紹介はとても魅力的。水墨美術館に関わっていると、陶芸やいろんな分野に興味を持つが、知らない作家や作品がまだまだあり、学びなおしの場となっている。子どもたちについては、小さいうちから美術館に来てほしいし、礼儀やけじめを学ぶことも大事。小さい子も連れて来てほしいし、大人のためだけの施設ではないと思う。(D 委員)

・アンケートを見ると、18 歳以下の来館が少ない。これから社会に出ているんな美術にふれてほしい世代。若い世代が関心の高い展覧会も大切ではないか。超絶技巧展がこれから開催されるとのことだが、絵画だけでなく、いろんな内容を見てもらえると、新たな美術館の姿を発見してもらって、若い世代が興味を持って楽しそうだった。テレビドラマなどに反応されることが多いので、植物画や徳川家など、テレビの話題の中で関心を持ってもらえるような内容はどうか。また、外国人の方の来館についてはどうか？どのあたりの国の来館があるか？外国の方の観光ルートの中に水墨美術館を組み込んでもらったらよいのではないか。(E 委員)

・富山市から遠い地域に住んでいると、普段は富山市まで来る機会があまりない。また、美術館を訪れることもなかった中、子どもが最近興味を持ったのが、CMを見て知った富山県美術館のジブリ展だった。改めて水墨美術館のチラシなどを見ると、ひきつけられるものがあるので、今までもっと見ればよかったと思っている。広報印刷物など、もっと学校へも情報を発信してもらって、子どもから親世代に伝えてもらったらよい。(F 委員)

・「味わいのある企画展を今後も」という意見には賛成。作品数が少なくても、見方を考えたらとても魅力がある。必ずしもたくさん展示すればよいとは思わない。内容の濃いものを、深く鑑賞できるものを期待したい。自身の子どもの以前、小村雪岱展を鑑賞した時の感動がきっかけになり、大学の文学部で東洋美術史を専攻している。完全に、水墨美術館の影響であり、大事なことだった。子どもたちに美術館の活動を見せるということは、未来につながることであり、本物を見られる水墨美術館は大切な存在なので、今後も楽しみにしている。(G 委員)

・今年の夏はとりわけ暑かったが、水墨美術館に来たら涼しく過ごしやすかった。都会の美術館もいいのだろうが、富山は都会の混雑した環境と違い、いつも快適に過ごせる。観覧者数の話も出るが、それだけではなく、適度に過ごしやすいい大人の美術館だという印象がある。以前もキャプションの文字が小さいという意見を申しあげたが、企画展にもよるが、最近表示が見やすくなっており工夫されていると感じている。下保昭作品室について、変化を感じにくい部屋だとは思いますが、最近、変わったなという印象を持つことが多く、下保作品の新たな魅力を知ることができた。ただ、部屋の立地のせいもあるが、あまり知られ

ていない。もう少し理解が深まると、見方も変わるのではないか。水墨美術館の目玉の一つなので、下保さんの作品があるから見に行きたい、となるとうれしい。また、都会では目先の変った展覧会も美術館もあるが、「富山にいて、日本の美を語れる大人はカッコイイ」そのためには「水墨美術館に行きましょう」ということを、富山の大人たちに訴えられないか。アンケートを見ると来館者も70%近くが50代以上、高齢化社会なので、大人こそ、日本の美術を語れるカッコイイ大人になりましょう、と捉えてもらえるような導き方ができないかと感じている。(H 委員)

- ・歳を重ねると、キャプションが細かいのが見づらい。ポイントだけおさえると満足できるので、もっと知りたい人は別の方法で、という風なことが考えられないか。それと、公共交通機関。バスがなくなった。高齢化社会、自動車免許を返納してしまうと来たくても来れない人もある。一日に何回かだけでもいいので、富山県美術館と水墨美術館の間をつなぐバスがあると、両方見られる。観光客の方にとってもよいのでは。それと、喫茶店。水墨美術館のまわりには飲食店がないので、美術館の中にあれば若い方も利用してもらえるのではないか。根気強く検討してほしい。(I 委員)

- ・公立美術館はどこも共通の悩みを抱えていると感じている。観覧料が高校生以下無料の美術館には、収入に厳しい影響はあるが、その種はいつか芽吹くと信じている。版画の展覧会を見た方が版画家になった話もある。美術館で見た展覧会によって、美術の専門家としての道を歩むことになった。先ほどもあったように、若い人に蒔いた種は、時間がかかってもいつか芽吹いてくれる。すぐに結果が出なくてもいつか結果はついてくると信じている。幼稚園の子どもたちが美術館内を歩いた後に公園でどんぐりを拾ったりして過ごし、美術館が楽しかったと感じた思いを、来館の動機につなげてくれたりするのではないか。また、過去の事例で、キャプションを子どもたちにも読めるように、やさしい漢字とわかりやすい言葉で作ったことがある。

川合玉堂展は、独自企画で多くの観覧があったというのは喜ばしい。巡回展ももちろんいいところはあるが、独自の企画で人をひきつける魅力は美術館の大きなアドバンテージになる。大型でなくても企画の魅力で人をひきつけられる展覧会ができるよう頑張してほしい。(J 委員)

- ・超絶技巧展は、明治工芸ももちろんだが、若手の現代作家の素晴らしい作品が多く出品されており、SNSでとても話題になっている。若い人たちがかなりたくさん観覧に訪れている。東京の会場では、ブログをやっている人たちを招いて写真を撮ってもらい、その場でどんどん情報発信してもらっていた。SNSもうまく使いながら情報発信していただきたい。それから、富山県外のクオリティの高い美術コレクションを紹介する展覧会が今後開催されるとのことだが非常に期待している。サブタイトルなど展覧会名の工夫をすることによって、うまく内容を示すネーミングを考えるとよいと思う。(K 委員)

- ・子育て支援や外国人観光客の来館の話があったが、新しい試みを取り入れる際には、必ず監視員を増やしたり、外国語対応など手がかかったりと人員や予算の問題が出る。学芸員の負担も確実に増える。いいことだが、いいことだというだけでは現場はやっていけない。そういうことまでセットで考えていただきたい。富山はとても面白く豊かな街で、力のあふれる街だと思うので、財政は厳しいかもしれないが、そういった支援をしていただくことが次の時代につながるのだと思っている。(B 委員)